

令和 7 年度環境保全計画書

生活協同組合コープこうべ

① 環境保全計画書の記載範囲

生活協同組合コープこうべは、兵庫県下全域および大阪北摂地域で事業を行っている組織であり、環境の重点取組目標・計画は全体で策定しております。そのため、以下の記載内容はコープこうべ全体の環境に係る取組計画となります。

② 環境保全に関する基本方針(基本理念)

当生協では、SDGs の目標年・2030 年に向け、環境の取り組みを加速させることを目的に、環境チャレンジ目標を 2018 年に策定しました。



③ 重点取組目標・計画

ア. チャレンジ1「CO₂排出量を半減!」(基準年:2013年度 政府目標の基準年と同一)

既存の取り組みを維持・強化し、2050年度目標「実質排出量ゼロ」に向けた検討を進める。

	2025 計画
1	・32事業所について、「コープでんき」と比較して、CO₂排出係数の低い「エネット」供給に切替え。 ・「再エネ100%事業所」はスタート時の8事業所を継続(CD豊岡は朝来バイオマス発電所からの調達を主とした電源かつ非化石証書有りを継続し、再エネの地産地消を推進)。
2	・宅配コスト削減による配送ルートの見直しを継続し、年間走行距離23,000Kmを削減(昨年比3%)することでCO₂排出量を抑制。 ・EVトラック導入に向けて、引き続き宅配運営部と安全運転センター、日生協等と連携しながら検討。
3	S&B・改装・設備更新の際、省エネ設備への切替えを促進(空調4店舗、LED9店舗、冷ケース5店舗)。

イ. チャレンジ 2「食品廃棄物を半減！」(基準年:2015 年度 SDGs の基準年と同一)

エコファーム残さ回収店舗の拡大、店舗・宅配でのロス対策を強化、削減を推進。

2025 計画	
1	・食品残さ回収対象店舗を、58 店舗から 65 店舗に拡大。また、店舗業務の実態に合わせ、運用手順を見直すことで、既存店舗からの回収量増加を図る。 ・食品残さの回収が困難な遠隔地の店舗において、新たな資源循環の手法を検討。
2	(店舗事業) ①チャンスロス・ロス削減の施策を実施するとともに、「管理日数点検ツール」の導入を検討。 ②「てまえどり」運動のさらなる推進のため、「ハピネスチャージキャンペーン」の水平展開を検討。
3	「CO・OP NEXT 100 商品開発」を通じた、規格外や余剰品などの原料有効活用を取組を推進。
4	4 店舗で導入している消滅型生ごみ処理機「P O I T O」の安定稼働を進め、店内で発生する生ごみの約 8 割削減をめざす。
5	魚崎浜、見津が丘の各集配センターで発生する余剰商品の有効活用を推進。

ウ. チャレンジ 3「プラスチック使用量を 25%削減！」(基準年:2017 年度)

容器包装や資材における使い捨てプラスチックの削減、学習会対応、広報強化を推進。

2025 計画	
1	商品の容器包装や店舗・宅配(リサイクルシッパーの本格導入、内袋の薄肉化)でのプラ資材について、リサイクル・使用量削減策を検討・実施。
2	フードプランのノントレイ商品を導入。フードプラン×ノントレイの組み合わせで SDG s に関心が高い組合員への訴求を強化。
3	広報・学習会を通じ、「マイバッグ運動NEXT」(「減らす」「増やす」「広める」)の推進継続。

エ. チャレンジ 4「エシカルな商品やサービスの開発・供給推進！」

エシカルな商品の開発・供給促進、「コープでんき」の普及拡大、リサイクル品の再製品化を推進。

2025 計画	
1	エシカル強化月間を中心に、エシカルな商品の企画・供給を促進(店舗・宅配・供給政策推進室との連携強化)。
2	6 月の環境月間に合わせて、全 KC にて廃食油リサイクルを展開。
3	4 月、コープこうべ・神戸市(下水処理場由来の「こうべ再生リン」提供)・リサイクラー(大栄環境㈱)・メーカー(自然応用科学㈱)との協働により、「兵庫県産の食品リサイクル堆肥を使用した花と野菜の培養土」の供給を開始。事業活動による食品廃棄物半減につなげるとともに、「土の地産地消」を実現。
4	コープでんきの理解を深める為、エコファームのソーラーシェアリングで栽培された野菜プレゼント企画を強化・継続。
5	寄付機能付きペットボトル回収機の設置(3 店舗)、寄付金の贈呈等を計画。
6	羽毛の回収・リサイクルについて、店舗での継続実施・強化(ダウンジャケットの積極回収)。
7	組合員・行政・他社と連携し、つめかえパックリサイクル(「神戸プラスチックNEXT」)の取り組みを強化。

オ. チャレンジ 5「組合員とともにエシカル消費・活動を拡大！」

エシカル・SDGs に関する取り組みを強化し、リアル・オンライン併用で推進。

	2025 計画
1	「玉津のつどい場（たまろっと）」の SDGs 拠点化を推進。紙リサイクル機器「ペーパーラボ」を活用したカレンダープロジェクトを展開し、資源循環・障がい者雇用の取り組みを見える化を推進。
2	「エシカル消費」をテーマとした「地域つながるフォーラム 2025」を開催（11/15）。
3	エシカルや SDGs に関する講演会・学習会（オンライン含む）を実施し、地域全体で取り組みを推進。
4	フードドライブ常時受付（全 C 店）継続、店舗・宅配での集中取り組みを年 2 回（9 月・1 月）開催。
5	職員研修（「ま Navi」）ツールとして SDGs 関連映画の視聴・学習企画「シネマ de SDGs」を継続開催。
6	日生協主催のコープサステナブルアクション（「生き物探し」「WEB 学習会」等）に積極参画。（継続）
7	古紙めーむ・宅配内袋の返却の呼びかけ強化を実施。回収率向上を促進（継続）。
8	『ステーション』等への情報掲載を通じて、エシカル消費・SDGs に関する情報を発信（強化）。
9	「ラジオ関西」にて環境の取り組み（「コープエコのはなし」）を毎月放送（継続）。
10	エコファームのソーラーシェアリングで栽培された野菜プレゼント企画の援農を職員に「ま Navi」で募集し、職員への「コープでんき」理解機会の促進。（継続）

以上